

居住福祉の諸相

岡本祥浩 (中京大学 総合政策学部 教授) ・ 野口定久 (佐久大学 人間福祉学部 教授) 編著

A5 判・並製・192 頁・税込 2200 円 (本体 2000 円) ISBN 978-4-7989-1755-9 C3336



アフター・コロナ時代、 新たな居住福祉社会の実現に向けて—。

超高齢化社会、一人暮らし世帯の増加、経済格差拡大、建物の老朽化、都市開発等による強制転居、人的災害・自然災害、そしてパンデミック—。ソフト／ハード、国内／国外問わず様々な方面から押し寄せる社会変動の波によって、人々が安心して生活を営むために最も重要な「居住」が危ぶまれている。「一人ひとりにふさわしい居住」の実現を目指した、居住福祉叢書第3弾!

注文書

(東信堂直接注文のみ特価税込)

※この注文書で直接東信堂宛 (FAX : 03-3818-5514 メール : toshindo.onlineorder1985@gmail.com または HP 注文フォーム) にご注文いただいた場合は、合計購入冊数が3冊以上の場合、送料無料。1冊～2冊ご購入の場合、送料370円～。海外配送は実費をお支払いいただきます。お支払いは、書籍到着後同封した請求書にてお願いいたします。また全国どの書店からでも注文可能です。

メールでご注文頂く場合は、『居住福祉の諸相』●冊 注文書送付」と件名に書き添えて①御氏名②希望書籍タイトルと冊数③お支払方法 (私費 or 公費。公費の場合は請求先機関をご記入ください) ④お送り先住所 (郵便番号とお電話番号も忘れずに) を本文にご記入、または必要事項記入済みの本チラシを添付してお送りください。

居住福祉の諸相 税込特価 1760 円 冊

〒

御住所

御氏名

TEL

直接注文は
↓コチラ↓



大学生協は
↓コチラ↓



アマゾン
↓コチラ↓



楽天ブックスは
↓コチラ↓



目次：居住福祉の諸相

はじめに	(岡本祥浩)	(2) きらくえんにおける「住まいとケア」	
居住福祉叢書の刊行趣旨	(早川和男)	コラム 毎日の暮らしを支え続けるもの	
序章 コロナが問う居住福祉	(野口定久)	(3) 施設は「重度者のための住まい」なのか	
—パンデミックを超えて—		おわりに	
はじめに		コラム 暮らしまで切り離されてしまわないように	
1. 気候変動による地球環境の危機			
2. 居住福祉の価値としての共生社会			
3. 新しい生活保障システムの形成を迫る COVID-19			
4. コモンの再生から見た居住福祉の構想			
コラム 市民による住宅と水道の再公営化			
—地域政党バルセロナ・イン・コモンの実践例			
第1章 居住福祉学の新たな視点—生活資本論—	(岡本祥浩)	第5章 「居住福祉」と経済発展・政治意識	(神野武美)
はじめに		はじめに	
1. 生活資本とは		1. 資本主義の成立・発展期の居住福祉思想	
2. 周辺概念の検討		(1) 首都東京と地方	
(1) 生活を支える社会的資源		(2) 官僚たちが目指した理想の「田園都市」	
(2) 生活を実現する能力		(3) 「戦勝ムード」から場当たりの住宅政策へ	
(3) 生活環境を構築する力		(4) 大阪市長関一—の理論と実践	
(4) 事例		2. 日本的都市・住宅政策の形成と定着	
(5) 機能不全に陥っている母子世帯の生活資本		(1) 戦時体制下、厚生省主導の住宅政策	
(6) 地域拠点施設を備えた大曽根併存住宅		(2) 住宅政策は建設省所管へ	
(7) 「生活資本」を創り続ける南医療生協の活動		3. 高度経済成長と都市政策の思想	
おわりに		(1) シビル・ミニマム	
コラム 新型コロナウイルス対策が露わにした貧困な「生活資本」		(2) シビル・ミニマム論の限界と革新自治体の後退	
		4. バブル崩壊後の閉塞状況と居住福祉	
		(1) 「出世主義」が産み出したもの	
		(2) 「被災者生活再建支援法」を実現させた	
		(3) 政治を支配する「天下国家主義」	
		5. 蔓延する社会的不効率	
		(1) 「集積の利益」と「集積の不利益」「分散の不利益」	
		おわりに	
		コラム 100年前に置き去りにされた「道」	
第2章 東アジア大都市における居住貧困問題と居住福祉の実践	(全 泓奎・松下茉那)	第6章 コロナ危機に向き合う居住福祉社会	(野口定久)
はじめに		—社会的距離と社会的包摂—	
1. スラムという居住地		はじめに	
2. 各国の居住貧困をめぐる実態と取り組み		1. COVID-19 危機と居住福祉	
(1) 空き家を社会的資源として活用する日本		(1) 感染症抑制と経済回復のトレードオフ	
(2) 見え隠れする韓国の居住貧困と新しく動き始めたソウル市による居住福祉実践		(2) 生活保障重視への政策転換を	
(3) ソウル市による社会住宅の実験：住宅供給のオルタナティブを求めて		(3) 居住福祉社会の思想—社会的包摂と空間価値論	
コラム コロナ禍のなかでの韓国の社会的不利地域(チョッパン地域)居住者の生活と支援実践		2. 居住福祉社会の実現	
(4) 居住貧困への取り組みに消極的な台湾の住宅政策		(1) 居住福祉資源は社会資本	
(5) 香港に広がる狭小住宅問題と若いソーシャルワーカーによる居住福祉実践		(2) COVID-19 危機は東京一極集中の転換となるか	
コラム 蔡英文総統就任後の台北市の住宅政策		(3) 人口の社会移動と地方再生の可能性	
おわりに		3. 居住福祉社会の実現に向けて	
		(1) 地域循環型経済の推進	
		(2) ゆるやかな共同体の形成—コモンの再生へ	
		(3) SDGs 投資で社会問題解決するグローバル資本主義	
		おわりに—「新しい生活様式」と居住福祉社会のゆくえ	
		コラム 居住福祉資源列島改造論	
第3章 社会的包摂と居住福祉	(野村恭代)	第7章 居住福祉教育—社会がつくる居住—	(岡本祥浩)
—地域コンフリクトの克服—		はじめに	
はしがき		1. 居住福祉教育の目的	
1. 精神障害者への住民意識		2. 居住福祉教育の見取り図	
2. 住民意識と社会的排除		3. 「居住問題」と社会の関わり	
3. 社会的排除としての地域コンフリクト		(1) 少子高齢化問題	
(1) コンフリクトとはなにか		(2) 災害	
(2) 地域コンフリクト発生の背景		(3) 強制退去	
4. 地域コンフリクトの発生状況		(4) ホームレス問題	
(1) 地域住民から施設・事業所への苦情等の内容		(5) ○○難民問題	
(2) 住まいに対し発生する地域コンフリクト		4. 居住福祉の評価	
(3) 地域コンフリクトへの対応と社会的包摂		5. 「生きる力」、居住福祉を身に付ける	
おわりに—社会的排除の対象から社会的包摂へ		(1) 暮らしの基盤の造られ方を学ぶ	
コラム コロナ禍における精神科病院の課題		(2) 社会を変える	
		(3) 客観的な居住水準の認識	
		おわりに	
		コラム コロナ禍での学び	
第4章 地域包括ケアと居住福祉	(中田雅美)	あとがき	(野口定久)
—地域を基盤とした「住まいとケア」—		執筆者紹介	
はじめに			
1. 地域包括ケアシステムとはどのような概念か			
(1) 地域包括ケアシステムの源流			
(2) 地域包括ケアと「住まい」			
(3) 地域包括ケアシステムが持つ4つの側面			
2. 「住まいとケア」という視点からみる地域包括ケア			
(1) 高齢者の「住まいとケア」とは			
(2) 高齢者の「住まいとケア」4類型			
(3) 「住まいとケア」の貧困			
3. きらくえんにおける地域包括ケア実践			
(1) きらくえんを取り上げる理由			